

## 総合的な探究の時間「国際理解」学習指導案

大阪府立千里高等学校

地歴・公民科

1. 日 時 令和元年12月19日(木) 第5時限 13時15分~14時05分

2. 場 所 リバラルアーツ棟2階 社会科教室

3. 学年・組・教科(科目) 第1学年7組(40名)  
総合的な探究の時間「国際理解」

4. 単元(題材)名 『国際問題とその解決に向けての考察』  
(手作りプリント・考察シート・デザインシート)

### 5. 単元(題材)の目標

さまざまな国際問題への関心を高め、SDGsの個別の目標についての考察を深めるとともに、その解決策を探り、次年度の探究活動に向けた各自の研究課題をみつける。

### 6. 教材観

完全に自作の教材であるため、この教材でどの程度の目標達成効果が上がるかは未知数ではあるが、市販されているさまざまなワークシート例や本校の過去の教材等をベースにして作成しているので、生徒が主体的に活動してくれることは期待できる。そこからの学びの成果については、次年度の探究活動開始まで見届ける必要がある。

また、これまでの夏の国際理解教養講座や、夏休みの課題としての映画鑑賞、あおぞら財団の講演は、それぞれ生徒の国際理解に対する意識向上のよい転機となった。

### 7. 生徒観

本校の国際文化科は例年各クラスとも男子と女子の比率が1:2ぐらいであったが、クラス数再編の結果、今年の1年7組は、男女比率が逆転し、2:1と男子が多いクラスとなっている。そのため、これまでの本校国際文化科の女子が活発なクラスの雰囲気とはやや異なり、男子が活発な雰囲気をつくっている印象で、女子も真面目で明るくクラス全体に一体感がある。

国際理解の授業に対する意欲も感じられ、夏休以降、徐々に国際問題に対する意識が高まりつつある。

### 8. 指導観

本校の総合的な探究の時間、1年2単位「国際理解・探究基礎」、2年1単位「探究」の枠組みの中で、次年度の「探究」に向け、1年時の「探究基礎」は、データの読み解きや、データの収集方法、ディベート、レポートやパワーポイントの仕上げ方など、どちらかといえば技術を習得するのに対し、国際理解は、各自の「探究」のテーマを絞り込むための、課題意識づくりが主たる目的であると思われる。世界にどのような課題があるか、その課題に対し、国際社会は、そして自分自身はどのように関わっていくべきなのかといった事柄について、さまざまな角度からアプローチしているところである。

## 9. 単元（題材）の評価規準

| a 関心・意欲・態度   | b 思考・判断・表現   | c 技能  | d 知識・理解   |
|--|--|---|---|
| 持続可能な社会の形成に対する関心を高め、それに参画するという観点から現代社会における課題を意欲的に探究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めようとしている。 | 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を見だし、幸福、正義、公正などを用いて多面的、多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究するために必要な諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用するとともに学び方を身に付けている。 | 持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究するための方法について理解し、その知識を身に付けている。 |

## 10. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

| 時         | 学習内容        | 評価の観点* |   |   |   | 主な評価規準・評価方法                           |
|-----------|-------------|--------|---|---|---|---------------------------------------|
|           |             | a      | b | c | d |                                       |
| 第1時       | 公害問題ロールプレイ  | ○      |   |   |   | 与えられた課題に積極的に取り組んでいる。                  |
| 第2時       | あおぞら財団講師の講演 |        |   |   | ○ | 講演の内容を正しく理解している。                      |
| 第3時       | 課題解決力を磨く    | ○      |   |   |   | 与えられた課題に積極的に取り組んでいる。                  |
| 第4時       | SDGsとは何か    | ○      |   |   | ○ | SDGsの内容を理解する。                         |
| 第5時       | 仮想CSR推進室①   |        | ○ | ○ |   | グループで協力して課題に取り組んでいる。                  |
| 第6時<br>本時 | 仮想CSR推進室②   |        | ◎ |   |   | 前時で調べたことや、まとめた内容について、課題に沿った発表ができています。 |
| 第7時       | 国際的読者課題と私   | ○      |   | ○ |   |                                       |

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- 各班のグループメンバーがそれぞれ協力して課題に取り組み、それぞれの役割を果たす。【b】
- 国際的読者課題の解決に向けた具体的かつ現実的なアイデアを提案する。【b】

### (2) 本時の評価規準

- 発表……声の大きさや発表の姿勢などがよいか、提案したCSRの活動内容が具体的で現実的か、発表時間は守られているか。【b】
- 提案……CSRのキャッチコピーの内容、デザインしたウェブページのデザインは適切か。【b】

### (3) 本時の準備物

- 各班から提出されたグループワークシート
- プロジェクター
- 評価シート

(4) 本時の学習過程

| 時間                | 学習内容・学習活動   | 指導上の留意点  | 評価規準等  |
|-------------------|---|--|--|
| 3分<br>導<br>入      | ◎本時の内容確認  | ◎本時のおおまかな流れを確認する。<br>◎聞く姿勢をとらせる。<br>◎評価シートを配付する。   | ◎他班の発表を聞く姿勢が適切か。   |
| 4分<br>展<br>開      | ◎1班～8班の順に発表<br>(25～32分)<br><br>◎発表の振り返り<br>記入(3～5分)<br>◎感想の集約(3～5分)<br>→ 相互評価(4～9分) | ◎一班あたり3分前後を持ち時間とする。<br>(最大4分まで)<br>◎各班の発表ごとに評価シートに評価点を記入させる。<br><br>◎振り返り記入欄に各自の感想等を記入させる。<br>◎班ごとに互いの感想を共有する。<br>→ 他班のよかった点を中心に各班で出た感想を述べる。 | ◎声の大きさや発表の姿勢などがよいか。【b】<br>◎提案したCSRの活動内容が具体的に現実的か。【b】<br>◎発表時間は守られているか。【b】<br>◎CSRのキャッチコピーの内容は適切か。【b】<br>◎デザインしたウェブページのデザインは適切か。【b】 |
| 3分<br>ま<br>と<br>め | ◎次時にどのようにつながるか確認する。   | ◎これまでに学習してきた国際的諸問題について、自分自身のこととして置き換えていくことの意義について、次時で考察していくことを伝える。   |  |

「観点別評価の判断規準」の設定

| 判断基準<br>評価規準 | A<br>十分満足できる  | B<br>おおむね満足できる                        | C<br>指導の手立て                                 |
|--------------|---|---------------------------------------|---|
| 【b】          | 課題を見だし、多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、さらなる探究に向けた意思表示がなされている。 | 課題を見だし、多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | グループでの協同学習の大切さを説き、グループ活動が円滑にすすむようアドバイスをおくる。 |

